

# 今日の黙想のてびき

週日聖書日課 民数記 24：10～25  
2026年6月20日(土)

## ◆文脈と言葉

- バラク：モアブの王。バラム：預言者（託宣者）
- イスラエルの民がアモリ人を滅ぼしたと知ったバラクは、託宣者バラムを招いて、イスラエルの民を呪うように依頼しますが、逆にイスラエルを祝福することになります。バラムは主のお告げのみを忠実に預言するのです。

## ◆あらすじと説き明かし

- バラムはイスラエルを祝福したので当然バラクは失望し怒ります。バラクはバラムに帰るようにと命じ、バラムは「最初から主の言葉しか語らないと言っているではないか」と反論します。
- そしてさらにバラムは、将来イスラエルの民がバラクの民に何を行うかを知らせる預言をします。けれどもこの預言は、バラクに限らず神がイスラエルを祝福し、神に反する部族を滅ぼす預言でした。
- この中で、イスラエルの中に「一つの星」が与えられることが預言されます。この星が裁きを下すのです。イスラエルの民に神はモーセやダビデという指導者をお与えになります。
- さらにこの預言は、人間すべてを神の民＝イスラエルにすべく神から遣わされ、民族ではなく罪を裁くために来られた御子イエス・キリストの預言として、わたしたちは受け止めます。